

## 第4回新しい資本主義実現会議提出資料

令和4年3月8日

(株) シナモン 代表取締役社長 CEO 平野未来

我が国の科学技術の国際競争力について、多くの課題が存在することが、「基礎資料」で整理されている。我が国の科学技術の底上げ、また国際競争力の向上については、「論点案」に提示されているとおり、「投資」と「人材育成」が重要であると考えます。一般社団法人未踏など、アイデアや技術を持つIT人材を発掘し、育成する事業や団体の大規模化及びグローバル化を支援すべきです。特に、グローバル化においては、海外の才能を日本の繁栄に活かすためにも、海外の未踏人材を日本に招待することが重要である。投資においては、政府が、より金融ハブとしてスタートアップを盛り上げる必要がある。参考にシンガポールをみると、金融庁などの政府団体がエンジェル投資をし、イノベーションや新規事業の立ち上げを促進する規制改革を実施している。更に、積極的にスタートアップへの発注をすることで、スタートアップを伸ばしている。

AIの開発を行っているスタートアップ企業として、「論点案」に提示された、AIに対する論点について、主に意見を述べる。AIの国家戦略の必要性を検討するにあたり、論点案では、

「企業のニーズを念頭に」置き、AI の開発と実装を進めると提示しているが、同時に成長戦略との整合性を踏まえる必要がある。我が国の成長において重要となる国際競争力の向上を検討する際、まず、我が国が世界と競争できる領域を定め、国際競争力とする領域とその他の領域とで分けた上で、AI 技術がどのように国際競争力とする領域に貢献できるかを考えるべきである。以上の考え方を前提とし、以下の具体的な考えを提示する。

#### 1) 我が国が国際競争力を示す領域の提案

我が国の科学技術力と今後の世の中の流れを踏まえ、以下の領域に重点的に支援すべきと考える。

- 少量多品種ものづくり

難易度の高い少量多品種の品質保証プロセスが AI を用いることにより、レベルの高い状態でオペレーション化できる可能性が高いと考える

- ハイエンド農業

日本のハイエンドな野菜・果物を作る属人的スキルを AI に学習させ、日本ブランドの野菜や果物を海外で育て、提供することができる可能性が高いと考える

- エイジ・テック

超高齢化社会に向かう日本では、エイジングに関するデータ量が豊富であるため、AI の活用により、個別化医療や医薬品の研究開発や細胞の「若返り」による療法の促進が実現できると考える

- ゲーム系ブロックチェーン

AI をレギュレーターとして活用することにより、ゲーム会社やユーザーとは独立した形で、資金洗浄や犯罪収益移転などの不正取引の防止、ゲーム会社への不公平なゲーム設定など、ゲーム環境の管理が可能になり、公平で安全なブロックチェーンを用いたソーシャルゲームを開発することが可能となる

- 防災

素材・建築の研究開発(強風などの災害に強い壁)、ドローンの活用(監視、予測)、災害のシミュレーション(災害が起きたときの救助、無人探査)などの分野において、AI の活用が可能である。今後グローバルに災害が増える中、自然災害の多い我が国の経済的ポテンシャルだけでなく、外交としても AI の活用事例やモデルとして、提示することが可能と考える

## 2) 我が国が国際競争力を発揮しない領域だが、AI の国家戦略に含むべき領域

以下の領域において、現段階で国際競争力を発揮している国が多くある一方、今後の世の中の基盤となる科学技術になるため、成長戦略、ならびに AI 国家戦略においても、検討する必要がある領域であると考え。

- ブロックチェーン

デジタル資産やインターネットにおけるトラストの基盤となる技術である。AI は、レギュレーターとして活用されることが想定される

- サイバーセキュリティ

デジタル化が進むことにより、デジタル空間における安全性は、今以上に重要になる。AIによる学習を用いることにより、常に新たなサイバー脅威に対応することが可能となる

- メタバース

ポストコロナの時代において、デジタル空間上での交流のニーズは高まっている。AIによるメタバースのレギュレーション、ならびに拡大が想定される

- ドローン・モビリティ

世界における人口の減少や少子化問題のソリューションとして、技術開発が進んでいる。自動運転やドローン配達など、AIの技術を用いて実現される

以上